ROTARYCLUBofFUKUSHIMA2018-19WEEKLYREPORT

国際ロータリー第2530地区　創立 1951.1.1　承認 1951.3.23　登録番号 7734

福島ロータリークラブ会報

vol.25

http://www.f-rotary.com/　2019.2.28 thu

Rotary　インスピレーションになろう　2018-19RI 会長　バリー・ラシン

18-19年度スローガン「融和と進化」

福島ロータリークラブ Facebookページ
https://www.facebook.com/fukushimarotary/

【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋7F　【例会日】木曜日12：30　【TEL】024-524-1010　【FAX】024-524-1011　【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp　info@f-rotary.com

本日のプログラム　新会員スピーチ

農林中央金庫　福島支店長　望月 大輔 会員

三井生命保険　福島営業部長　岩田 竜也 会員

会長あいさつ

2018-19年度会長　**浦部 博**

２月の理事会では、箱岩偉会員の推薦で、花のカレン代表 村上守人さんが新会員として承認されました。理事会報告でお知らせいたしましたが、７日以内に文書による異議申し立てがなかったので、正式に入会となります。

年度初めは、支店長さんなどの交代で会員83名のスタートでしたが、２月現在で91名、その内、地元企業の新会員は４名の純増となっております。なお、数名にお声掛けしておりますが、会員の推薦は続いておりますので、ぜひ引き続きよろしくお願いいたします。

さて、2/24（日）こむこむプラネタリウムにおきまして、福島ロータリークラブ主催による「信夫山から見る星空 スペシャルライブ」が開催されました。同時に福島東稜高校・IAC・科学部生徒たちの「信夫山の魅力展」も行われた訳ですが、一般市民のみなさんが沢山来場されて、１・２回とも完全満席となりました。

内容は、素晴らしいもので、東稜高校の450mm反射望遠鏡から見る「冬の星座」のご案内から始まり、徐々に壮大な宇宙の姿、大小の星雲の神秘、そして小惑星「信夫山」の存在、といった物語で構成されました。

そのあい間あい間に「十六夜（いざよい）」の二人の素晴らしい歌声が綴られていくという進行で、お客様も大変に満足されて素晴らしい時間となりました。「大変によかった。星空と音楽の組み合わせに感動した。信夫山すごい！ 十六夜の歌声が美しかった」という声が沢山に寄せられました。

ごあいさつでは、ロータリークラブについて、少しご紹介をさせていただきました。若干でも、ご理解と「ロータリーの公共イメージの向上」に結びついたら、幸いであると思っております。帰りには、ゆっくりと「信夫山の魅力展」を見ていただきまして、みなさん大変興味を持って多様なパネルをご覧になっていました。生徒たちも、研究した成果を市民の皆さんに見てもらえたということで、大変充実して満足した様子でした。

なお、今回のイベントでは、民報新聞・民友新聞の両紙に、寄付講座・挨拶訪問・開催日取材まで、色々と大きく取り上げていただきまして、お世話になりました。改めまして御礼を申し上げたいと思います。

一方、国際奉仕委員会の白岩委員長からは、2/16（土）あづま総合体育館において、ふくしま・ベトナム友好協会主催、福島ロータリークラブ後援で、福大外国人留学生を対象とした「ティーボール体験教室」が行われたとのご報告がありました。総勢19名が参画して大変有意義な活動が行われたということでした。

例会次第

開会点鐘　浦部 博 会長

ロータリーソング
「福島ロータリークラブの歌」
ソングリーダー　菅野 晋 会員

会長あいさつ　浦部 博 会長

米山功労者　伝達
米山功労者第３回マルチプル
古俣 猛 ガバナー補佐より　浦部 博 会長

幹事報告　増子 勉 幹事

■プログラム・ニコニコBOX小委員会
ニコニコBOX担当
丹羽 和也 副小委員長

■本日のプログラム

閉会点鐘　浦部 博 会長

新会員スピーチ

農林中央金庫　福島支店長　望月 大輔 会員

この度は、スピーチの機会をいただき、ありがとうございます。伝統ある福島ロータリークラブに入会させていただいたのが、平成30年5月でありますので、9カ月程経ったところですが、例会にあまり出席できておらず、恐縮しているところです。今回が初めての福島勤務です。これまで福島とはあまりご縁がなかったのですが、皆様のご支援のお陰で、楽しく福島での生活を、特に夜の部を中心に楽しく過ごさせていただいております。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。折角の機会でありますので、私の自己紹介と、これまでの勤務地とそこでのお仕事などをお話しさせていただければと思います。

自己紹介ですが、私は、1969年12月生まれで、現在49才です。家族は妻と、大学生の息子一人、高校生の娘が一人で、家族は東京の阿佐谷に住んでいます。娘は今、大学受験の真っ最中です。受験生の娘がピリピリしていて、少し話しずらいので困っています。ちなみに単身赴任は今回で3回目です。洗濯も料理も好きですし、家でのんびりとできるので、単身赴任は毎回楽しんでいます。

私の出身地は三重県三重郡朝日町というところで、名古屋から電車で30分程度のところにあります。朝日町は三重県で面積が一番小さい自治体で、山に囲まれた田舎町です。私が住んでいた頃は人口も年々減っていたのですが、10年ほど前に山を削って宅地開発をしたら、立地が名古屋と四日市に近いので、外部から人がたくさん入ってきて、7、8年頃前に子供の人口増加率が日本一になり、私が住んでいた頃と比べ人口が倍になりました。私の兄弟は兄1人と妹1人の3人兄弟で、町には今も親と私以外の兄弟の家族が住んでいます。

私の父親の仕事は建具屋で、障子だとかを作っていました。兄は大工で、妹は看護師をしています。親戚にガラス屋とペンキ屋もいまして、家系としては職人が多いのですが、私は残念ながら手先が不器用でして、小学生の時から父親に「お前は無理だ」と言われて育ちました。ちなみに兄の長男は今、中学3年生ですが、将来、大工になると言っています。

学生時代の部活は陸上部で中長距離走をしていました。この10年程のマラソンブームもあって、今でも時々走っています。社会人になって走っているのは、第1回の東京マラソンに、記念にということで、同級生4人で申し込んだのですが、全員外れてしまい、代わりに茨城県のかすみがうらマラソンを走って以降、たまにレースに出るようになりました。フルマラソンはこれまで11回走っています。

少し自慢ですが、40代でフルマラソンを2時間台で走れる走力がありますので、小さい規模のレースですと、時々、入賞することもあります。福島に来てからは、しっかりとお酒を飲んでいるせいか、体重が5キロ増えました。また、二日酔いの日が多いので、そもそも運動する気力が無い日が多く、走る回数も量もかなり減っているのが悩みです。福島に来てからも10キロ程度の距離からフルマラソンまで、いくつかレースを申し込んだのですが、レースの前日に大酒を飲んでしまうので、当日は二日酔いのため、全てのレースでスタートラインに着くことがない状況になっています。

お酒については、夜の席をご一緒させていただいた方もたくさんいらっしゃいますので、既にご認識いただいている方も多いと思いますが、私はお酒が好きで、かなり量も飲んでしまう方です。福島に来てからお酒で困ったことは、私は7年程前から、腰痛対策のために寝る前に腹筋・背筋をやるのですが、以前は酔っていても腹筋ができていました。こちらに来てからは、年のせいで酒が弱くなったのか、酒の量が増えたためかはわかりませんが、腹筋をやろうと思って横になるとそのまま眠ってしまう日が続いて、ろくに腹筋ができなくなり、また腰痛になりました。ただ、先日、横にならないでも腹筋ができるマシンをネット通販で買いまして、お陰でこの1カ月はきちんと腹筋ができるようになり、腰痛もだんだん良くなってきています。

お話を自己紹介に戻させていただきますと、大学は東京の一橋大学に入学しました。入学は平成元年です。大学生の頃は、部活とアルバイトをしている程度の毎日でした。今から思うと地味な学生生活だったと思います。当時はお酒もたまに飲む程度でした。

就職したのが平成5年で、現在も勤めています農林中央金庫に就職しました。就職活動のなかで何となく選んだのですが、小学生の時から農協貯金をしていましたので、ご縁はあったのかなと思っています。就職活動の際の面接でも「小学生の時から農協貯金をしていました」と話をして内定をもらいました。

農林中央金庫は、現在は個人のお客様との取引もないので、あまり馴染みのない方が多いと思いますので、簡単に組織についてお話しさせていただきます。

農林中央金庫は、農協、漁協、森林組合という第一次産業の組合組織のなかで、全国段階の金融機能を担うという位置づけの組織です。ただ、100兆円を超える残高のある農協貯金に対して、漁協貯金は3兆円弱という状況ですので、業務のウェイトは農協に関することのウェイトが高くなっています。

組織ができたのが1923年、大正12年で、創立96年です。設立当初の農林中金の主な役割は、全国各地の農協が地域によっては資金が余り、地域によっては農家の方が必要とする資金の融資を行うためのお金が不足している状況にあることに対して、それを調整する役割を担ったり、1つ1つの農協では対応が難しい大口先の資金対応を行う役割を担うというものでした。

その後、戦後の高度経済成長のもとで、農協の貯金の額が大きく増加していったため、農協が集めた貯金のうち、農協が貸出等で運用しないお金が増えて、そのお金がたくさん農林中央金庫への預け金として預けられるので、それを原資に企業への融資やマーケットへの投資を行って、それで稼いだ利益を農協や漁協などに還元するという役割が年々大きくなりました。

近年は農協組織に対する社会的な批判も強くなっていますので、農林中央金庫自身も利益を上げることに注力するだけでなく、改めて、社会に対しての本来の役割であります「農林水産業の発展に貢献することに力を入れる」という方向を強めるように取り組んでいるところです。

私の最初の勤務地は群馬県です。これまでの勤務地は群馬県、宮崎県、新潟県、宮城県、福島県、東京の6か所で、25年の勤務の半分くらいが地方勤務です。群馬県には2年半程勤務しました。群馬県では、森林組合や林業者への融資を担当しました。今はない融資の仕組みなのですが、当時、森林担保貸出という制度がありまして、山を担保に融資をするのですが、その山に生えている木について、太さ、樹齢毎に何本あるかということを測定して、木を含めた山の担保価格を計算して融資をするという仕組みです。残念ながら、今から20年程前に国産材の価格の下落で、木を切り出したり運搬するコストを吸収するのがやっと、という木材の価格になり、利益が出ないということで、生えている木を担保にカウントできないということで制度そのものがなくなりました。

群馬県の次は宮崎県で勤務しました。宮崎県には平成7年から11年まで、3年半程勤務しました。主に牛や豚の畜産農家の方への融資を担当しまして、私にとっては一番農林中金らしい仕事をしていた時です。

当時、私の担当している農家さんの合計で1万頭以上の牛の肥育の資金の融資していたのですが、「ひも付き融資」という名

前の仕組みで融資をしていまして、これは今でも宮崎県で残っている仕組みなのですが、牛を１頭毎に、全頭管理して、１頭毎に毎月必要なエサ代などを融資し、牛が１頭に売れる度毎に貸出金を回収するという仕組みです。よく農場に融資している対象の牛がいるかを見に行っていました。

その後、平成11年から震災の年の平成23年まで東京で勤務し、その後、新潟県で２年半勤務しました。新潟で初めてロータリークラブに入りましたし、日本酒をたくさん飲み始めたのもこの頃です。その後、宮城県に転勤し、震災復興の担当のお仕事などをしていましたので、今回の福島の勤務によって、東日本大震災の被災県の勤務は２回目となりますし、震災復興に関わる仕事も２回目となります。

宮城にいた頃は、がれきの山がなくなったら、どんどんと工事が始まり、数か月ごとに景色が変わる地域もたくさんあったのですが、ここ福島ではそういう訳にもいかず、原発事故の難しさを改めて感じますし、私が福島で勤務をしている間に、少しでも、前に進むところが増えればと感じているところです。

以上が私の新会員としてのスピーチです。取り留めもないお話で恐縮ですが、私のことを少しでもご理解いただけましたら幸いです。

ご清聴ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

新会員スピーチ

三井生命保険　福島営業部長　岩田 竜也 会員

これから、私のプロフィールと以前所属しておりましたRCの活動の中で出会いましたある集団についてお話しさせていただきますのでよろしくお願しいいたします。

まず、私のプロフィールからお話いたします。

昭和39年６月に福岡県北九州市に生まれました。

一人っ子でしたが、母親42歳の時の子供で、当時としては大変な高齢出産であったことでしょう。

昭和39年と言いますと、その年の10月に東京オリンピックが開催されましたが、前年の昭和38年に五市合併により北九州市が誕生しました。日本全体が活気づいていた時だったのでしょう。

その後、高校卒業まで地元で過ごし、大学は広島で過ごしました。

高校はワンダーフォーゲル部に所属しておりましたが、大学は軟式野球部に所属しました。当時、野球が好きで特に高校野球が好きでした。好きが嵩じて、自分でもやりたくなり大学では軟式野球部に所属しました。最後までレギュラーにはなれませんでしたが、野球は社会人になってからもしばらく続けました。母校の野球部はかつて夏の甲子園２連覇したこともあったのですが、昭和53年のセンバツを最後に40年甲子園に出場しておりません。昨年、野球部の監督に私の同級生が就任しました。いい中学生がいても県外の強豪校に流出してしまい、人材確保に苦労しているようですが、昨年夏の金足農業の活躍には希望をいただきました。自分が生きているうちに甲子園出場する姿を見たいというのが願いです。

大学卒業後は、昭和62年に三井銀行（現在の三井住友銀行）に入行し、その後AIU保険（現在のAIG損保）と経て、平成18年に三井生命に入社しました。ここで、会社のことを紹介しますと、大正３年銀座の商店主を発起人として高砂生命が設立、昭和２年に三井グループが資本参加し三井生命に社名変更しました。初代社長には團琢磨が就任しました。５年後に血盟団事件で非業の死を遂げた人物です。戦後の一時期を除き、永らくご愛顧いただいておりました三井生命はこのたび大樹生命と社名変更いたします。私の会社人生のなかで５回目の経験になります。

趣味は登山と言っても山歩きと言ったほうがいいでしょうか、昨年浦部会長に連れて行ってもらった信夫山は久しぶりの散策で楽しかったです。

家族は、妻と大学生の息子２人で、私は単身赴任生活７年目です。以上プロフィールでした。

次に、以前所属したRCの活動の中で出会った「若松がんばろう会」という集団のことについてお話ししたいと思います。

私は、７年前に母親の介護もあり、地元北九州市の若松というとことに移り住むことになりました。地元に住むのは高校卒業以来30年ぶりでした。

北九州というと、「修羅の町」というイメージが定着し、あまりよい印象を持たれていないと思いますが…。事実、私が赴任した早々、船の中からロケットランチャーが押収されたり、警察OBが狙撃されたりと、物騒な事件が続きました。

その北九州市の中で若松はどういう町かと言いますと、火野葦平さんの作品で「花と龍」という小説があります。石原裕次郎さんや高倉健さんが主演し映画にもなりましたので、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。題名からすると任侠もののような感じですが、内容は、沖仲士と呼ばれていた石炭荷役の港湾労働者の話です。内陸に筑豊炭田をかかえ、戦前は日本最大の石炭の積み出し港として賑わいました若松が舞台になっております。

戦後、石炭から石油へのエネルギー転換により、昭和40年代から町も衰退し、沖仲士も姿を消し、現在は政令指定都市の中で最も高齢化が進んでいる北九州市の中でも、深刻な高齢化と人口減少に見舞われております。

若松は北九州市街部とは「洞海湾」に隔てられた市の西部に位置しております。市街部に行くには、湾にかけられた橋を利用することになりますが、昭和37年の開通から50年を経ても通行料が徴収されていました。これが人口流出の一因になっておりました。商店街も地方都市にありがちなシャッター街になっており、再開発しようにも地権者の所在がわからない状況でした。昔を知る方は、「過去の栄光」を語るだけで、まさに時計の針が止まっている。そんな状態でした。

そんな中、縁がありまして私は若松RCに入会させていただきました。そのRCの活動の中で出会ったのが「若松がんばろう会」という集まりです。

これは、商店の２代目・３代目を中心とした20～30代の若者たちの集まりで、若松の町を何とか活性化させたいとまさにがんばっている集団でした。若松RCは、本来のRCの主旨からはずれているという批判もありましたが、がんばろう会を支援しておりました。彼らと一緒に企画したり、時には行政との橋渡しをしたり……。私は仕事が終ってから参加させていただきましたが、朝まで話し合うことも度々ありました。彼らは、「考えたことはすぐ実行に移す」をモットーにしておりました。

決して、すべてがうまくいったというわけではなかったのですが、ラジオ番組を持って町のPRをしたり、専門家と組んで空き家のリノベーションを展開したりと、いくつかは実になったものもあります。私は、彼らの熱意に魅せられ、会社員生活では中々味わえない貴重な経験をさせていただきました。

３年前に私は若松を離れまして、彼らの活動を遠くから見守ってきたのですが、昨年12月に朗報を耳にしました。若戸大橋の通行料が完全無料化されたというニュースです。見事に長年の悲願が達成されたということです。多くの先輩方やがんばろう会をはじめとする次世代を担う若者が言い続けた結果であろうと思っております。

最後に、いずれ私は福島を離れる時が来ます。

今度は、次の赴任地で福島の事をお話しできるように、もっと色々なことに携わりたいと考えております。そのために、皆様にご教授いただきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

大きく取り上げられた福島RC活動、民報新聞・民友新聞で三回ずつ掲載

2019年(平成31年)2月25日（月曜日）

映像と音楽楽しむ

信夫山から見た美

信夫山や星空の魅力について来場者に説明する福島東稜高の生徒（中央）ら

福島
（RC
日、福
ラネタ
ら見る
ブ」を
から見
を音楽
同R
福島東
山の魅
ート。
や、同

[redacted]

▶福島民報社あいさつ訪問取材

▲福島民友新聞社イベント当日取材

寄付講座から各回とも両紙に掲載していただきました。

「青少年育成活動＋ロータリーの公共イメージ向上」プロジェクト

寄付講座（おもしろ信夫山学）でスタート

羽黒神社で探索開始

烏が崎の絶景と巨石群

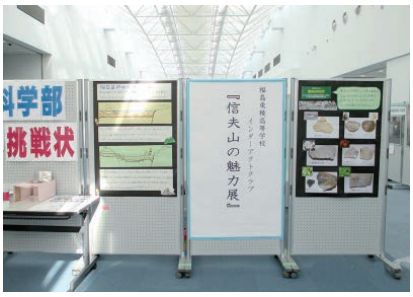
校庭上にあった稚児岩（雨乞石）

学校の上鶏頭森の奇岩びっき石

巨石の古峯神社にびっくり

こむこむ4F広場で、福島東稜高校IAC「信夫山の魅力展」と、プラネタリウムで「信夫山から見る星空・スペシャルライブ」の開催

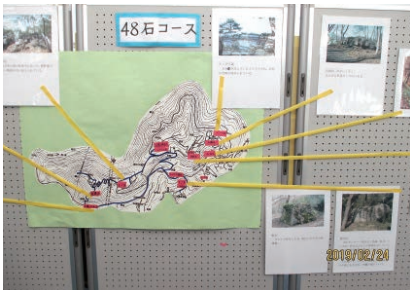
ロータリー旗とIAC旗



信夫山の生成と化石解説

わらじいもお出迎え

研究発表 金鉱の秘密！



信夫山48石とはなーんだ？

科学部は宇宙と星雲

みなさん興味深々

沢山の市民で賑わう

プラネタリウムの行列

米山功労者伝達

古俣ガバナー補佐より伝達
●米山功労者第３回マルチプル
浦部 博 会長

例会プログラムのご案内

3月14日（木） 12：30～ 辰巳屋

【通常例会】
県北第一分区　古俣 猛 ガバナー補佐　クラブ訪問

3月21日（木） 祝日の為休会

3月28日（木） 18：30～ 辰巳屋

【創立記念夜間例会】

その他のお知らせ

- 3/1（金）優良IAC表彰式が福島東稜高校にて行われます。浦部会長が出席します。
- 3/2（土）福島中央RC主催のあれこれなんでも相談会が、10時よりアオウゼにて開催されます。当クラブからは、古俣 ガバナー補佐、今井理基夫 会員、加納武志 会員、佐藤裕 会員、菅野晴隆 会員事業所職員、山崎高寛 会員事業所職員が参加します。
- 3/5（火）18時30分より親睦ロータリー家族小委員会が開催されます。委員の皆様はよろしくお願いします。
- 福島RCのフェイスブックが運用開始となっております。会報にQRコードが掲載されておりますので、是非ご覧になってください。
- 3月のロータリーレートは2月同様、1ドル110円になります。

私のひとこと

祝 古関裕而 NHK朝ドラ「エール」決定！

加藤裕司 会員

実は私が所属していた福島商工会議青年部において、平成26年に福島市を元気にそしてアピールするためにと考え出したのが古関裕而をNHKの朝ドラに取り上げてもらえないかということでした。結果様々な方のご尽力によって実現することが出来ました。感慨深く、大変嬉しい限りです。

平成27年には古関裕而さんに関する担当の委員にもなり、息子さんにお話を聞いたり、駅前で古関メロディの音楽祭を開催したりしました。

私たち福島の学校の校歌を数多く作られており、そして勿論全国的に今でも歌い続けられている名曲が沢山あります。生涯の作曲活動で5,000曲を作曲されたとのことですが、計算すると3日に1曲のペースです。音楽に詳しくない私でさえ驚いたのを思い出します。

私たち青年部で考えたのはこれで終わりではありません。最終的に古関メロディを全国へアピールし、代表作の「オリンピック・マーチ」を福島の子どもたちがオリンピックの開会式会場で演奏し、福島を全世界へアピールしたいという目標を立てました。これも皆さまのお力により実現できれば大変素晴らしいことです。

最後に私ごとですが、東京の大手企業と手を組み、福島県川内村において32MW（一般家庭約8,000世帯分）の太陽光発電事業工事を進めております。

これは私たちのグループ以外にも数社ありますが、原発事故により使用してない首都東京へ繋がる電線を利用して2020年までに発電を開始し、福島県で作った自然エネルギーをオリンピック会場の電気に使用するというプロジェクトです。

オリンピック会場で古関メロディを福島の子どもたちが演奏し、その姿が福島の電気で明るく光り輝ければ最高の幸せです。

ニコニコBOX報告

本日のニコニコBOX投入額　28件　¥55,000　累計¥1,201,000　［報告］　丹羽 和也 副小委員長

五阿弥 宏安 会員
古関裕而と金子夫妻の物語がNHKの朝ドラに決まりました。放送は来年春。本当にうれしいことです。

幡 研一 会員
望月会員、岩田会員のスピーチ楽しみです。

渡邊 又夫 会員
1939年、東京オリンピックの開会式をスタジアムで観ました。古関先生の入場行進曲を聴いて感激の涙を流したものでした。皆で喜びたいと思います。

望月 大輔 会員
本日、新会員スピーチのお時間をいただきました。よろしくお願いします。

岩田 竜也 会員
本日つたないスピーチをさせていただきます。こんな機会をいただきましてありがとうございます。

中山 興 会員
暦の上で雨水を過ぎて、寒い中にも少し暖かさを感じるようになりました。今年は桜の開花も早いそうですので、福島の春を楽しみにしております。

内池 浩 会員
明日から3月。雨水から啓蟄。もうすぐ春ですね。

茂田 士郎 会員
南アフリカ編(3)
16世紀頃、ポーランド人達が船で大西洋を南下してアフリカ大陸を回遊し、アジアに向かう際に最南端の希望の岬を休憩地としていました。現在のケープタウンです。17世紀半ばにオランダ人が上陸して定住し、18世紀末にはイギリス人が定住してイギリスの植民地になりましたが、1910年に南アフリカ連邦として独立しました。その後イギリス人による人種差別政策が20世紀末まで続いたのは、前に述べた通りです。

クラブ会員より　古俣 猛／増子 勉／三宅 喬／白岩康夫／佐藤英典／土屋敦雄／反後太郎／加納武志／江本和彦／吉田大樹／後藤浩之／安藤健次郎／佐藤 徹／黒崎浩一／菅野裕一／丹治正博／加藤義朋／高倉裕行／佐藤良智／丹羽和也